

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-734

③ 施設名等

名称：	唐池学園
施設長氏名：	鶴飼 一晴
定員：	52名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1945/10/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員：	35名
職員数 非常勤職員：	16名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	23名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（オ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（カ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	個室（37）、2人部屋（2）、3人部屋（3）
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室、自立訓練室、親子訓練室、多目的室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<理念>

子どもの幸せのために

<使命>

- 1 子どもの権利を守ります
- 2 一人ひとりに応じた自立を支援します
- 3 家族とともに子どもの成長を見守ります
- 4 地域と協働して子育て支援に取り組みます

<基本方針> ～こんな子どもを育みたい～

私たちは以下の5つの方針に基づいて、子どもと生活をともにします

- 1 かけがいのない人として大切にします
- 2 子どもの個性と可能性を育みます
- 3 健やかな心と体を育みます
- 4 人を思いやる気持ちを育みます
- 5 社会の中で居場所がもてるように支えます

⑤ 施設の特徴的な取組

○理念や使命、基本方針は、現場の職員間で検討して策定している。特に基本方針は、養育・支援の体系化を進め、職員の行動規範とするために、数年前に大幅に改訂している。改訂にあたっては委員会を立ち上げ、現場の職員から改訂案を募り、世代別の4グループで討議し、全体の会議の場で最終的にまとめている。本園の建替え計画についても、建替え検討プロジェクトチームを中心に、先進的な実践をしている他施設の視察や聞き取り、園内研修の開催、職員に対するアンケートの実施などを行い、子どもたちからも個別に意見を聞き取っている。業務の改善は、上からの指示で行うのではなく、あくまでも職員の主体性が大切で、園長と職員がともに検討することになっている。

○園内に子どもたちが組織する「子ども自治会」がある。自治会には、部屋会議、リーダー会議の縦の集まりと、小学生会議、中学生会議、高校生会議の横の集まりがある。それぞれ月1回話し合いを行い、子どもたちの声を広く聞いている。年3回、職員の不適切な行動を防止するために、子どもの気持ちを「聴こう会」を設け、子どもたちがSOSを発信できるようにしている。また、子どもと触れ合う時間を大切に、「アタッチメントタイム」（個別の触れ合いの時間）の1年間の統計を表にして、できるだけ子どもたちと一対一の時間を作るように努めている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/9
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

○唐池学園は70年以上の長い歴史のある児童養護施設で、マンション形式の5つの部屋（家）すべてで小規模グループケアを実施している。子どもたちは、男女混合縦割りの定員8人の部屋（家）に分かれて生活を送っている。また、同一敷地内に、地域小規模児童養護施設「なの家」と「よんの家」があり、それぞれ6人の子どもが生活している。本園の暖炉のあるロビーは、卒園生の思い出の場所で、年末年始には、卒園した子どもたちの里帰りの場として開放している。

○小規模グループをひとつの家として、3人の担当職員を配置している。日々の生活の中で、子どもが考えていること、悩んでいることを受け止め、寄り添うようにしている。特に小学生の子どもは幼さが抜けきれず、職員に甘えてくることが多い。入眠時にはできるだけ寄り添い、話を聞く機会を作っている。

○未就学児は4人おり、日中は保育士が年齢に応じた保育を行っている。小学生の1名は、地域の公文式学習に通っている。ボランティアによる学習の時間も設けている。また、体操教室やピアノ、サッカー、和太鼓などの習い事をしている子どももいる。中学生はほぼ全員が塾に通っている。卓球やバスケットボール、バトミントン、陸上などの部活も行っている。

○リービングケア委員会が中心になり、小学生にはクイズ形式でごみの分別の方法などを、中学生の横割り会議ではこれからの自立に向けた話をしたり、高校生には外部の講師による自立に向けた話など、リービングケアを早期から始めるようにしている。卒園に向けて「くまさんハウス」（自立訓練室）を使い、自立のための練習を行っている。アフターケアとして、子どもの誕生日に連絡をしたり、卒園生の会「美丘（よしおか）の会」の参加を促している。園の行事への招待や年末年始のロビーの開放で、多くの卒園児が集える場を設けている。

○食は生活の中心と考え、おいしく食べ、楽しい団らんの間としている。子どもたちは今日一日の出来事などを話し合っている。栄養士によるバランスの良い献立の他、自由献立や誕生会のリクエストメニュー、行事食など、手作りの食事で子どもたちの生活を支えている。

○「子どものための手引き」を用いて、暴力はいけないことを話している。気持ちを抑えきれず暴力をふるう子どももいる。子どもが興奮している時は、居室でクールダウンして、気持ちが落ち着いてから話し合うようにしている。また、職員は複数で対応し、心理士を含めて全体でフォローしていく体制をとっている。

○子どもたちは担当の職員と自分の進路をどうするかを話し合い、リービングケア委員会や職業指導員と生活面や金銭面などの具体的な話し合いを行っている。児童相談所のケースワーカーが保護者と連絡を取り合い、本人が進路を決めている。高校に進学したが、うまくなじめず不登校になっているなど、難しいケースもある。

○園長や職員が地域の自治会や子ども会、青少年健全育成協議会などの役員を担い、地域の福祉ニーズの把握に努めている。地域の工業会や商工会との関係は深く、子どもの職業体験などで協力を仰いでいる。また、毎年開催する唐池祭には、民生委員・児童委員などの関係機関や地域の方がボランティアとして活動し、地域との関係を深めている。子ども会や青少年健全育成協議会の打ち合わせの場として、園のロビーや食堂を提供している。自治会のいどばた会議の中で、高齢者の買物支援の話が出たことから、月3回、高齢者の買物ツアーに園の車両や運転手を提供して協力している。園長も運転手として参加し、買物ツアーは地域の高齢者20人程が利用している。今後は高齢者の通院支援も必要と捉えている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度、第三者評価を受審し、私達が実践している家庭的養育を取り入れながら、チーム全体で児童のケアにあたっている部分を評価していただきました。

利用者（子ども達）が主体であることを優先した質の高い支援、地域に開かれた施設を客観的に評価していただく中で、不足している部分や、自信を持って継続していける部分を具体的に示していただきました。

改善点においてはチーム全体で共有した上で検討し、子ども達にとって、よりよい支援につながっていくよう努力していきたいと考えています。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>理念や使命、基本方針は、ホームページに掲載するとともに、NPO法人チャイボラが運営するチャボナビに、職員の採用や見学会の情報を投稿する中で、理念や使命、基本方針も記している。理念や使命、基本方針は、現場の職員間で検討して策定している。特に基本方針は、養育・支援の体系化を進め、職員の行動規範とするために、数年前に大幅に改訂している。改訂にあたっては委員会を立ち上げ、現場の職員から改訂案を募り、世代別の4グループで討議し、全体の会議の場で最終的にまとめている。子どもや保護者には、入所時のみの説明のため、今後はわかりやすく説明し、周知や共通理解を図っていきたくと考えている。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>「福祉新聞」や「月刊福祉」「季刊児童養護」などを定期購読して、社会福祉事業全体の動向を把握している。また、県や市の地域福祉計画や、市の子ども・子育て支援事業計画などの策定動向や内容の把握にも努めている。法人内の職員が、市の要保護児童対策地域協議会に専門委員として参加して、地域の要保護児童のニーズの把握や情報を収集している。「在籍児童異動報告」の月報を作成し、子どもの入退所の動向や定員の充足率について把握、分析して、措置費収入の増減予測や予算の作成に反映している。地域の自治会の中核的立場にいたので、地域と良好な関係が保たれており、地域のニーズも把握している。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

2ヶ月に1回程度、フリーの職員とブロックのリーダー的職員が参加する体制改善委員会を開催して、児童処遇や職員処遇、経営などの現状を多角的に分析し、課題を抽出している。また、5年前より、建替え検討プロジェクトチームを立ち上げ、施設整備に伴う職員体制や人材の育成、財務状況の見通しなどを検討している。月2回開催する職員会議では、後半に予算会議も開いている。部屋毎に年間予算を立てていることから、職員に前年度決算や当年度予算を周知する他、課題解決に向けた予算執行のあり方を検討している。法人全体で、外部の講師を招いた事務研修もっており、直近ではインボイスの研修を開催している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>中・長期計画としての「社会的養育推進計画」に、本園の建替え計画を盛り込み、具体的に計画を進めている。建替えのコンセプトである施設の小規模化や高機能化、多機能化とともに、経営や運営に関する現状と課題を把握している。建替え検討プロジェクトチームを中心に、先進的な実践をしている他施設の視察や聞き取り、園内研修の開催、職員に対するアンケートの実施などを行い、子どもたちからも個別に意見を聞き取っている。子どもたちからは、体育館がほしいなど、具体的な希望があがっている。毎年度、支援方針を立て、半期ごとに評価して、2年後の工事着工、4年後の新園舎完成を目指している。</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>中・長期計画に本園の建替え計画を盛り込み、単年度の事業計画に「建替えに向けて」の項目を立てて反映している。単年度の計画は、行事計画だけでなく、人材の育成や定着、確保、建替え計画、地域支援などを記載している。単年度の計画は、具体的な取り組みとして策定し、支援方針の実施状況の評価が行える内容としている。</p>	
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p> <p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>事業計画は、すべての項目について、基本的に職員全体で検討して策定することとしている。部屋や係、委員会、業種の各担当者が、支援方針の原案を作成して各職員に配布し、職員会議やケース会議の場で、検討や確認を行っている。職員会議やケース会議にて、方針の決定や中間総括、総括を行い、評価や見直しの機会を持っている。</p>	

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年1回、保護者会を開催して、事業計画の一部については説明を行っている。コロナ禍で、保護者会は開催を中止していたが、今年度は5月に開催して、10家族くらいが参加している。子どもたちに対しては、自治会やリーダー会議、部屋会議、小学生会議、中学生会議、高校生会議の場を利用して、事業計画のうち、必要な事柄を説明している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎年、各部署の支援者間で支援方針を立て、中間総括や総括を行っている。内容は統括職員の会議で集約し、必要な検討を行い、全体の会議で評価して次年度の支援方針に活かしている。PDCAのサイクルに基づいて、園全体で取り組んでいる。毎年、自己評価を行うとともに、3年に1回、第三者評価を受審して、養育・支援の質の向上につなげている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎年、各部署の支援者間で支援方針を立て、中間総括や総括を行っている。内容は統括職員の会議で集約し、必要な検討を行い、全体の会議で評価して次年度の支援方針に活かしている。定期的に職員会議やケース会議を開催して、課題の共有や取り組みの検討を行っている。評価結果について、職員間で課題を共有し、分析を行っているが、改善の取り組みまでには至らない事項もある。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a

<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

事業計画や支援方針、子どもや保護者に向けた「あすにむかって」、年1回発行する法人の広報誌「雑品倉庫」などで、園長の役割と責任を表明している。また、「委員会、係分担表」でも、園長の役割を示している。月2回開催する職員会議には園長が出席し、その他の会議や委員会については、必要に応じて、参加している。最高責任者としての立場を明確にしているが、職員の自主性を第一としている。有事の際の役割や権限の移譲は、「児童養護施設唐池学園 非常災害対策計画」に明記している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長は法人の理事長でもあり、地区社会福祉協議会の会長その他多くの団体の役員を担っていることから、法令遵守の意識を持って、研修会や勉強会に広く参加している。入手した情報は、行政からの情報も含め、職員会議の場で職員に周知し、遵守すべき法令などを正しく理解する取り組みを行っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月2回開催する職員会議に参加する他、体制改善委員会やリスクマネジメント委員会など4つの委員会のメンバーにもなっているので、養育・支援の現状や課題を把握する場に、園長が参画して活動している。また、職員の教育、研修を奨励し、職員が希望する研修に参加できるよう取り組み、職員が年5回は外部研修に参加できるようにしている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>

施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。

○

【コメント】

各部署の職員に、その職務を任せつつ、職員会議や予算会議を通じて、人事や労務、財務などについて、職員と情報の共有を図り、課題の把握や分析、改善策について、職員とともに検討を重ねている。業務の改善は、上からの指示で行うのではなく、あくまでも職員の主体性が大切で、園長と職員がともに検討することになっている。主任などの役職者も、あえて置いていない。職員が働きやすい職場作りに取り組み、家族介護の休暇を年間5日、園独自の特別有給休暇として設けている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。 <input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。 <input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 <input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	b
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員や里親支援専門相談員、自立支援担当職員、心理療法担当職員など、加算職員の配置を積極的に行い、職員配置の充実を図っている。職員の募集は法人内の事業所それぞれが行い、児童指導員を中心に採用活動を行っている。福祉人材センターやNPO法人チャイボラ、大学求人ナビなどを活用しているが、福祉人材の確保は厳しい状況にある。実習生や職員の出身校へのアプローチや、毎月施設の見学説明会などを実施している。人材の育成は5年は必要と捉えており、課題も多くあると認識している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。 <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。 <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	b
---	---	---

【コメント】

期待する職員像は、職員の「使命」に明文化しているが、職員が将来の姿を描けるような仕組みにはなっていない。人事考課は取り入れず、基本的に職員全員で決定する仕組みを構築している。把握した職員の意見・意向に基づき、体制改善委員会で検討の上、改善策を作成している。役職者は置かず、何かあった時は、園長が全責任を持つこととしている。職員の採用時面接も、全職員が面接に立ち会い、採用予定の部署の職員の評価を最優先して、採用を決めている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。 <input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	c

<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

心理士やフリーの職員に、随時相談ができ、課題があれば対応しているが、具体的な体制や仕組みにはなっていない。また、労務管理の仕組みが構築されていないため、今後は勤めてから4年以内の職員を対象にして、定期的に面談を行っていきたいと考えている。心理士への個人面談は、支援に関するだけでなく、職員のメンタル面の相談も受けている。施設の小規模化が進むと、勤務時間が長くなり、宿直の回数も増えることが想定されるので、働きやすい職場作りに取り組む必要があると捉えている。年間、複数の職員が体調を崩していることから、職員の健康面の管理も必要と捉えている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

支援の柱のひとつに「職員の資質の向上」を置き、期待する職員像を職員全体で検討して共有している。また、職員個々が研修などで学びたいことを、年度の目標にあげている。職員個々の資質や目標に向けた仕組み作りは、今後、取り組むべき課題としている。職員の外部研修の参加は、職員のスキルアップだけでなく、多くの人と触れ合い、視野を広げる機会と、園長は認識している。勤続年数の長い職員が多く、一人ひとり職員の責任感や動機付けが非常によく発揮されている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

「職員の資質の向上」を支援方針のひとつの柱として、具体的な取り組みを計画しているが、突発的な出来事が多く発生して、研修や教育の時間が取れない現状がある。新任の職員には、中堅やベテランの職員が一对一で付き、新人研修を行う他、一人で勤務する場面を作らないよう配慮している。職員会議などで外部研修の情報を提供し、職員が外部研修に参加しやすいよう、フリーの職員がシフトのカバーに入るようにしている。園内研修を企画、開催し、心理士による「トラウマインフォームドケア」(トラウマがあるかもしれないという観点を持って支援する枠組み)や、園長による「養育ブック」の説明などを行っている。職員の親睦を目的とした会合も行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○

	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

新任職員の研修や、建替えに向けた園内研修を定期的に行っている。園内研修は、職員会議の後半に行い、建替えに向けた研修は、設計を依頼する予定の設計士を講師に招いている。外部研修に参加した職員は、研修報告書を提出し、内容に応じて、職員会議で研修報告を行っている。研修報告書はファイルに綴じて、いつでも内容を確認できるように、職員室に置いている。外部研修参加時は、人とのつながりを広める機会でもあることから、懇親会などがあれば、職員に参加を勧めている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

児童指導員を担当として、実習生の受け入れを行っている。実習生向けのマニュアルに基づいてオリエンテーションを行い、実習終了後には、園の良い点を10点、良くない点を10点、あげてもらっている。各部屋2名を超えることがないように配慮して、年間に10名以上の実習生を受け入れている。実習生の受け入れは、福祉の担い手の育成とともに、自分たちの仕事を振り返る機会と捉えて対応している。実習終了後、アルバイトを経て、就職したケースもあり、今後も積極的に実習生の受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページやWAMネットを活用して、財務諸表や現況報告開示システムなどで、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。ホームページでは、第三者評価の受審結果や苦情の内容についても公開している。年1回、法人の広報誌「雑品倉庫」を発行して、支援者や関係機関、卒園生、元職員などに広く配布している。法人全体でオープンな経営、運営を基本としている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/>	施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

「社会福祉法人唐池学園 経理規程」を整備して、職員がいつでも閲覧できるよう、職員室に置いている。内部監査は実施していないが、法人事務会において、事務や経理、取引のルールなどについて、確認を行っている。会計処理については、複数の職員のチェックを経ることで、内部牽制ができる体制を整えている。福祉医療コンシェルジュ所属の会計士や税理士による月1回の会計巡回指導を受けている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

今年度の支援方針に、地域住民と関係機関等への支援と連携をあげ、基本的な考えを示している。職員が子ども会の会長やPTAの役員を担い、子どもたちが、キャンプやハロウィン、クリスマスなどの子ども会行事に参加している。子ども会の行事に参加する際は、状況に応じて、職員やボランティアが付き添って支援している。野球やサッカー、体操、ダンス、トランポリンなど、地域のスポーツクラブでの子どもたちの活動を通して、地域の方の園の理解につなげている。本人の希望や職員の勧めで子どもたちは活動に参加している。友だちの訪問も、特に制限は設けず、子どもたちは部屋や広場で、友だちと自由に遊んでいる。以前は近所の方から子どものいたずらの苦情があったりしたが、現在は関係が良好で、コロナ禍では近所の畑で、子どもたちが畝のマルチシート張りを手伝っていた。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアの受け入れにあたっては、事前にオリエンテーションを行い、子どもへの基本的な関わり方や、子どもの個性の理解、お願いしたいことなどを伝えている。子どもとの個別の学習指導、園内の整備や修繕、唐池祭のサポートなどに、ボランティアが活動しているが、現在、活動しているボランティアは1名で、ボランティアからアルバイトに替わっている。希望があれば、今後もボランティアを受け入れていく予定である。

(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○

<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所や学校、病院、教育相談センター、子どもたちが習い事で所属する団体などと頻りに連絡を取り合い、情報の共有と養育の協働を行っている。また、自立支援やアフターケアで連携を図る社会資源のリストを作成している。地域の工業会や商工会との関係は深く、子どもの職業体験などで協力を仰いでいる。地域の子ども会や青少年健全育成協議会などの団体に参画して、地域の福祉ニーズについて、情報を交換している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(5種別共通) 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長や職員が地域の自治会や子ども会、青少年健全育成協議会などの役員を担い、地域の福祉ニーズの把握に努めている。また、要保護児童対策地域協議会に職員が参画して、地域の福祉ニーズを把握している。毎年夏休み期間中に市内の主任児童委員が来園して、子どもと遊んだり食事をして交流している。また、毎年開催する唐池祭には、民生委員・児童委員などの関係機関や地域の方がボランティアとして活動し、地域との関係を深めている。高齢化が進み、地域には支援が必要な高齢者が多く、園の資源を活用して、具体的な取り組みを進めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども会や青少年健全育成協議会の打ち合わせの場として、園のロビーや食堂を提供している。自治会のいどばた会議の中で、高齢者の買物支援の話が出たことから、月3回、高齢者の買物ツアーに園の車両や運転手を提供して協力している。園長も運転手として参加し、買物ツアーは地域の高齢者20人程が利用している。今後は高齢者の通院支援も必要と捉えている。同じ敷地内にある障害者支援施設貴志園が福祉避難所に指定され、園にも災害時無線電話が設置されている。子どもたち用に非常食を3日分備蓄しているが、状況に応じて、地域への支援も必要となる。自助、共助、公助で、地域との関係作りを進めている。また、県内の児童養護施設で、災害発生時には、他施設を支援することを決めている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
---	---	---

第三者
評価結果

	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

理念や基本方針は、その使命を含めてホームページに明示している。また、職員間で「子どものための手引き」の読み合わせを行うなど、子どもを尊重した基本姿勢を高めている、子どもたちの横割り会議（小学生、中学生、高校生別のグループ）で確認し、子どものアンケートを実施して、子どもたちの提案や希望に対応している。規程類は、上部からの押し付けではなく、職員自らが考えて改正するなど、職員の自主性を重んじている。研修についても、研修係がそれぞれの職員に応じた研修を選択するなど、育成を重視する体制を確立している。

②	29 子どもプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

「子どものための手引き」は、わかりやすい文章で作成し、子どもたちに配布して内容を説明している。「子どものための手引き」は職員のマニュアルとしても活用している。子どもたちは男女混合の小舎制の中で生活しているが、「性教育委員会」がプライバシーの配慮を行い、性に関するマニュアルの再整備も、ケース会議で検討を常に行っている。子どもたちは、男女混合の生活の中で、家庭と同様の生活を送っている。園の取り組みに関しては、保護者会での説明が不足しているとの意見があがっており、職員は前向きに改善策を検討している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所にあたっては、事前に園を見学してもらっている。入所当日は、子どもと保護者に対して、パンフレットや配布資料の「子どものための手引き」「あすにむかって」にて、園の方針や養育、生活のルールについて説明している。毎年、子どもの日には、保護者会と青空フェスティバルを同時に開催して、保護者との交流や情報交換を積極的に行っている。定期的に更新している自立支援計画は、児童相談所や保護者と内容の確認を行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

養育・支援の開始時には、養育・支援の内容や方法、目標などを、子どもと保護者に説明して同意を得ている。子どもや保護者が、自らの状況を可能な限り認識できるよう、「生い立ちの整理（生活歴）」を複数回行い、記録に残し、養育・支援につなげている。青空フェスティバルや保護者会で、生活状況などの情報交換を行っている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

卒園後の子どもの対応は、担当職員が窓口になり、クリスマス会の参加を促したり、誕生日にメールや電話で連絡を取っている。正月は園のロビーを開放して、卒園生を迎え入れるなど、里帰りの場所を用意している。卒園後、困難に直面した子どもには、自立支援室を活用して支援を継続している。また、同じ法人内の乳児院から移行してきた子どもは、移行前の職員も関わるなど、子どもが不安にならないよう配慮している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

年3回の子ども全員への聞き取りや、部屋会議や自治会で、子どもの声を聞く機会を作っている。内容は集約し、部屋会議（各棟単位）やリーダー会議、自治会を通じて、子どもたちに伝えている。また、課題があればその都度改善を図っている。子どもたちの意見は、横割り会議の中でも聞き取りを行い、生活の満足度を把握している。リーダー会議では各部屋の課題を共有して、検討を行っている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート（匿名）を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○

	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

意見箱を設置し、子どもたちの聞き取りを通して、苦情解決の体制を整備している。苦情の申し出は匿名でも可能とし、意見箱に寄せられた意見は対応内容も記録している。検討結果は、子どもや保護者にフィードバックしている。プライバシーに配慮して、苦情の内容を公表している。第三者委員会にも報告して、アドバイスをもらっている。保護者には、苦情解決の仕組みや体制を説明している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちに配布している「子どものための手引き」に、自分の意見や思いを述べることを記載している。意見を表明する場として、部屋会議やリーダー会議、自治会、意見箱など、複数の方法を用意している。個別相談はロビー（応接室）や個室（居室から離れた部屋を使用）を使用するなど、プライバシーに配慮して、子どもたちが相談しやすい環境を整えている。年齢層が広いので、年少の子どもは、職員から声をかけるようにしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

意見箱や子どもたちの会議で聞き取りを行い、子どもたちの意見に対応している。対応に時間がかかる場合は、その都度、子どもたちに説明している。対応する職員も役割を分担し、相談しやすい体制を整えている。対応マニュアルは特にないが、子どもたちからの相談や意見は、養育・支援の質の向上につながるよう、職員間で検討している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメント委員会を設置し、事故や感染症の対応マニュアルを備えている。ヒヤリハットや事故報告の事例を収集し、リスクマネジメント委員会で、改善策や再発防止策を検討している。リスクマネジャーは特に選任していないが、園長やリスクマネジメント委員会の委員が中心になって対応している。災害時は園内を避難所に定めるなど、災害対策に努めている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症対策を適切に行い、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染者が発生した場合は、個室で対応するなど、クラスター予防を確立している。感染症対策マニュアルを整備し、職員会議で対応方法や対策を周知している。また、定期的に勉強会を開催して、感染症の予防に努めている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

「児童養護施設 唐池学園非常災害対策計画」や「土砂災害避難確保計画」に基づき、リスクマネジメント委員会が備蓄品リストの作成を含めた管理を行っている。毎月、災害を想定した訓練を実施している。また、子どもの安否確認のため、スマホを所持している子どもにはアプリの利用を勧めている。土砂災害危険区域にある部屋は、自主的に閉鎖し、安全の確保に努めている。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

園で独自に作成した「子どものための手引き」は、子ども用と職員用を作成している。また、養育ブックや園で作成した「性に関するマニュアル」も活用しながら、子どもたちの養育・支援に活かしている。それらに基づき、子どもの尊厳やプライバシーの保護を行っている。また、新任職員オリエンテーションや日常の養育・支援の場面で、周知徹底している。標準的な実施方法は、手引きの読み合わせや、ケース会議や研修で周知に努めている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

全体方針や部屋方針を養育・支援の基本としている。また、子どもたちの意見を反映して、自立支援計画を作成している。保護者の意見だけでなく、子どもの意見を重視して自立支援計画を作成している。自立支援計画は、中間総括や総括時に見直しを行っている。カンファレンスは、児童相談所や通学している学校とも連携して行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は部屋担当が作成し、家庭支援専門相談員や児童相談所のケースワーカー、保護者で最終確認を行っている。自立支援計画の作成にあたっては、関係職種のみならず、通学している学校や幼稚園、医療関係者とも協議して、子どものための計画となるようにしている。支援困難なケースは、協議を繰り返している。また、計画作成には子ども本人の参加を促している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は、子どもの意向と差異が生じた時や、状況の変化がある場合に、随時見直している。変更内容は、職員全員に周知している。また、計画の見直しは、子どもの生活を中心に考えている。個別支援計画は、定期的に見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

児童管理システム（すこやか日誌）にて、記録の統一に努めている。作成した記録は、全職員が閲覧できるようにしている。自立支援計画書や年度方針、総括などの閲覧が可能となり、職員間で情報を共有して、統一した養育・支援を実施している。記録の書き方などの指導は行っているが、記録方法に関する文書はなく、今後の課題としている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人全体で個人情報保護の規程を整備している。子どもに関する記録類の廃棄は行わず、永久保存している。これまで、情報漏洩は起こっていないが、今後は、個人情報保護の研修を行っていく予定である。子どもと保護者には、個人情報の取り扱いについて説明を行い、同意を得ている。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「子どもの権利擁護」としてマニュアルを整備し、職員研修を毎年実施している。研修の際には、権利について記載した「子どものための手引き」も、全職員で確認している。権利侵害と思われる事柄は、ケース会議などで議題に上げ、その都度検討して対策を考えている。年3回学期ごとの「聴こう会」などで、子どもの聞き取りを行い、担当者以外の職員からの聞き取りも行い、権利侵害がないか確認している。子どもと一対一での話し合いの場を設け、担当職員やフリー職員、心理士などが話を聞く体制をとっている。県作成の「養育ブック」の読み合わせを行い、職員間で確認を行っている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

入所時には、児童相談所のケースワーカーから、「権利ノート」を使用しての説明がある。具体的な権利について、ルビを振ったわかりやすい「子どものための手引き」を作成して、子どもに渡している。「子どものための手引き」には責任についても記載し、小学生会議の場などで読み合わせを行っている。自分のことを大切に、他の人も大切にしなければいけないこと、ルールを守る責任があること、暴力をふるうことはいけないことなどを確認し合っている。担当職員は子どもと買物や散髪に行く際に、子どもの気持ちを汲み取るよう努力している。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

生い立ちの振り返りについては、家族の状況からあえて触れてはいけない子ども、生い立ちを話し合うことができる子どもを、児童相談所に確認を取りながら行っている。退所や入学、卒業時などの節目の時期に、可能な子どもはケース会議で検討して振り返りを行っている。何故ここで生活しているのか事実を知り、その後の心理状態を見守りながら、今後の生活を考えていけるよう支援している。入所するまでのことだけでなく、入所後の生活の中での様々な人との楽しい関わりや、地域との関わりを振り返ることができるよう、アルバムを作成して、今後の支援につなげている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○

	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

「就業規則」に体罰などの禁止を明記し、全職員に周知している。また、理念や使命、基本方針を守りながら、子どもたちと関わっている。ケース会議では、子どもの見守りや子どもの動き、遊びなど、子どもの状況の確認を行いながら、職員の関わり方を話し合っている。職員の不適切な行動を防止するために、子どもの気持ちを「聴こう会」を設け、子どもたちがSOSを発信できるようにしている。子どもが落ち込んでいたり、食欲がない時は、何が原因なのか、話を聞くようにしている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、ケースについての説明を聞き、児童相談所のケースワーカーを含めて、ケース会議で話し合いを行っている。その後、子どもに見学に来てもらい、園内や部屋の様子の確認や担当職員との顔合わせを行い、入所を決定している。子どもの好きな食べ物や好きなものを聞いておき、入所当日までに、衣類や日用品を買い揃えている。入所後は、布団カバーや食器など、自分の好きな物を担当職員と一緒に買物に行き、担当との関係性を深めることができるようにしている。乳児院から入所する子どもは、いつでも乳児院に遊びに行けるようにしている。また、退所の際は、暮らしに必要な物を揃え、精神的に安心できるよう、いつでも連絡ができるようにしている。退所後も、子どもの誕生日には連絡を取り、いつでも遊びに来ることができるようにしている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

リビングケア委員会が中心になり、小学生にはクイズ形式でごみの分別の方法などを、中学生の横割り会議ではこれからの自立に向けた話をしたり、高校生には外部の講師による自立に向けた話など、リビングケアを早期から始めるようにしている。卒園に向けて「くまさんハウス」を使い、自立のための練習を行っている。アフターケアとして、子どもの誕生日に連絡をしたり、卒園生の会「美丘（よしおか）の会」の参加を促している。園の行事への招待や年末年始のロビーの開放で、多くの卒園児が集える場を設けている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p>	
<p>小規模グループをひとつの家として、3人の担当職員を配置している。日々の生活の中で、子どもが考えていること、悩んでいることを受け止め、寄り添うようにしている。特に小学生の子どもは幼さが抜けきれず、職員に甘えてくることが多い。入眠時にはできるだけ寄り添い、話を聞く機会を作っている。中学生は寝る前の時間に、高校生は10時以降に話を聞いてほしいと来ることがある。自分の意思が通らないとかんしゃくを起こす子ども、泣くふりをする子どもに対し、その子どもに応じた関わりを持ちながら、落ち着いてからどんな気持ちだったのかを聞くようにしている。</p>	
<p>② A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p>	
<p>ご飯は各家で炊き、副食は厨房で作ったものを各家に運び、皆で食卓を囲んで食事をしている。週1回、自由献立を行い、子どもたちが考え、買い出しからすべてを行って調理を楽しんでいる。部活やアルバイトなどで遅くなる子どもには、職員が温め直してリビングで摂ることができるようにしている。低学年の子どもは、できるだけ側に寄り添い、安心して入眠できるようにしている。「アタッチメントタイム」（個別の触れ合いの時間）の1年間の統計を表にして、できるだけ対一の時間を作るようにしている。小さい子どもはアタッチメントの時間が長いほど、精神的に落ち着いて生活できるようになっている。高校生は、アルバイトなどで帰りが遅かったり、対一の時間が少なくなるので、話を聞く時間を意識して作るようにしている。</p>	
<p>③ A9 子どもを信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>

	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

一輪車に乗れない子どもが、毎日一人で練習をしてできるようになった時は、職員も一緒に喜び、写真や動画を撮ったりしている。部屋会議などで、子どもたちからバーベキューをやりたい、花火をやりたい、お菓子を買に行きたいなどの希望が出た時は、自主的な話し合いを尊重して、実施できるようにしている。部屋会議では、子どもを褒める時間をとっているところもある。時には職員が先回りをして発言したり、職員が行ってしまうことがあるので、注意している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

未就学児は4人おり、日中は保育士が年齢に応じた保育を行っている。小学生の1名は、地域の公文式学習に通っている。ボランティアによる学習の時間も設けている。また、体操教室やピアノ、サッカー、和太鼓などの習い事をしている子どももいる。中学生はほぼ全員が塾に通っている。卓球やバスケットボール、バトミントン、陸上などの部活も行っている。高校生はアルバイトをしている子どももいる。小さい子どもは、広い敷地内で遊具を使って遊んでいる。各家それぞれが好きな新聞を購読している。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員が社会人としての模範となるよう行動して、日々の生活の中で、子どもたちに示している。地域のイタリアンや和食、焼き肉などのレストランから招待を受ける機会があり、子どもたちにマナーの話をしたりしている。日常生活では、子どもたちが洗濯機や炊飯器の使用や、部屋の掃除、整理整頓などを行えるよう支援している。お米のとぎ方やみそ汁の作り方などを学び、職員と一緒にやっている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
---	--------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食事場所は明るく楽しい雰囲気ですぐに清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事はできるだけ一緒に摂り、今日一日あったことを話し合う団らんの場を作るようにしている。部活やアルバイトなどで遅くなり、一人で食べなければいけない時も、職員は見守りながら孤立しないようにしている。自由献立で好きな物を作ったり、ヨーグルトやバナナなどで、おやつを作ったりしている。ごはんが残った時にチャーハンや焼きおにぎりなどを作っておくと、男の子は喜んで食べている。高校生は、自分でチャーハンなどを作って食べていることもある。食は生活の中で重要と捉え、栄養を取るだけでなく、楽しむことを大事にしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/>	常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時には、衣類や日用品を取り揃えて迎え入れ、その後は担当と一緒に買物に出かけて自分の好みの衣類を購入している。毎日、入浴後に着替え、清潔な物を着ている。衣類の管理は自分のタンスで個人が管理している。低学年の子どもは話し合い、職員と一緒に整理、整頓を行っている。入学式、卒業式、七五三などは個人で揃える子どももいるが、晴れ着などをレンタルすることもある。肌が弱くアトピーのある子どもは、適当な素材の衣服が見つからず、インターネットを活用して購入したりしている。下着や汚れ物は、下洗いをして洗濯するよう伝えてい

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

築50年の建物で老朽化している部分があり、危険のないよう修繕を行いながら生活を送っている。後ろが崖のグループの家は、危険のため現在は封鎖している。本園は建替えの予定であるが、歴史的な建物であると同時に、卒園生にとって思い出のある家でもある。子どもたちの部屋は、好きなぬいぐるみや、アニメのポスターなどを飾り、個人の居心地の良いスペースを作っている。食事用の食器は、今まではワンプレートだったが、茶碗や箸など、個人のものを使用している。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎朝の検温や顔色、食事量、声、鼻水などで、一人ひとりの健康状態を確認している。発熱があったり体調に変化がみられるときは、他の職員と相談の上、受診するか判断している。受診が決まると、宿直明けの職員が付き添い、診断結果や薬の処方を目録に記録し、他の職員につなげている。喘息のある子どもは朝夕の吸入を行い、アトピーのある子どもは全身に薬の塗布を行い、精神科通院の子どもの服薬介助など、医療的なケアも多くある。内科の嘱託医が年2回の健康診断や予防接種に携わり、健康管理を行っている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

横割りの子どもの年齢別会議の中で、年1度は性を取り上げた教育を実施している。小学生には男の子と女の子の違い、中学生には生理の対処の仕方、高校生には異性との付き合い方などについて話をしている。異性の職員との触れ合いについては、女の子は愛着を求めて職員に触れてくるが、子どもとの距離の取り方について、職員同士で話し合いを行っている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

「子どものための手引き」を用いて、暴力はいけないことを話している。知的障害やADHD（注意欠如・多動性障害）、LD（学習障害）などの診断を受けている子どもも多く、気持ちを抑えきれず暴力をふるう子どももいる。子どもが興奮している時は、居室でクールダウンして、気持ちが落ち着いてから話し合うようにしている。また、職員は複数で対応し、心理士を含めて全体でフォローしていく体制をとっている。学校や児童相談所と連携を取りながら対応している。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生の頃は、些細なことでトラブルになることが多い。職員が間に入り、両方の気持ちを聞きながら解決につなげている。中・高校生になると、学校の中退や不登校などもあり、対応に苦慮している。特別支援級の子どもに対して、あの子は支援級だからと言うことはあるが、特にそれが原因でいじめなどは起こっていない。子ども間で依存的な関係ができてしまうことがあり、養育・支援の難しさを感じている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

常勤1名、非常勤2名の心理職を配置している。心理的ケアを必要とする子どもに対し、定期的に心理室でカウンセリングやプレイセラピーなどの療法を行っている。実施内容は、「心理・個人ファイル」にその状況を記録している。また、職員会議やケース会議などに心理士が出席して、子どもへの対応についてアドバイスしている。入所後は、すべての子どもに心理査定を実施している。また、児童相談所の担当心理士とも連携を取りながら、保護者との話し合いにも参加している。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

小学校低学年の子どもは、学校から帰ってから、職員と一緒にリビングで宿題を行い、高学年の子どもは、各自自宅で勉強している。公文式学習に通っている子どももいる。低学力の子どもは、学校で「取り出し級」として特定科目の補修をしてくれたり、同じ学年の子どもが教えてくれたりしている。年に1回、小・中学校の先生との懇談会を園で行い、情報交換を行っている。障害のある子どもは特別支援級に入っており、担任の先生とは日々の連絡ノートで情報を共有している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちは担当の職員と自分の進路をどうするかを話し合い、リービングケア委員会や職業指導員と生活面や金銭面などの具体的な話し合いを行っている。児童相談所のケースワーカーが保護者と連絡を取り合い、本人が進路を決めている。高校に進学したが、うまくなじめず不登校になっているなど、難しいケースもある。今年度は、高校卒業後に専門学校への進学を希望している子どもがいる。職業指導員と話し合い、就職先を自分で選択できるようにしている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

社会性を身に付けるため、自立に向けた資金を貯めるため、高校生にアルバイトを推奨している。現在、ラーメン店やファーストフード店、学童保育などで働いている子どもがいる。アルバイト先は自分で探している。また、アルバイト先の会社が高校生会議に参加し、社会人としての心構えなどを伝えてくれている。また工業会や商工会の協力で、工場見学や就労体験などを行っている。社会性の低い子どもは実習を勧めても消極的な子どもが多く、利用頻度は少ない。同一法人内の障害者施設に移行して生活している子どももいる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

開園当初から保護者会を開催しているが、年々、参加者が減少している。学校の授業参観や運動会などの行事は、児童相談所と相談の上、保護者に案内して、子どもたちの成長を見てもらっている。面会や学校行事の参加で、他の子どもの保護者を見ている子どもの中には、自分の母親は来ないとあきらめている子どもや、うらやましいと思う子どもなどさまざまであるが、職員はできるだけ保護者との関わりの少ない子どもと一对一の時間を作り、話を聞くようにしている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

長く園で生活をし、園から独立していく子どもは多い。家庭引き取りの可能性がある場合は、児童相談所の親子支援班に参加してもらい、合同ミーティングを行い、親子での面会や外出、外泊、長期外泊などの段階を踏み、家庭の状況や保護者の受け入れ状況などを確認して、家庭への引き取りを進めている。長期外泊時には家庭訪問をして、子どもの様子を確認することもある。児童相談所と連携を取りながら、家庭への引き取りに向けた支援を行っている。

発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名： 唐池学園

取り組み	「自立」に困難を抱える高齢児への支援のあり方を考える	取り組み期間	5年4月～10月
------	----------------------------	--------	----------

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	社会的な自立に困難が予想される高齢児の支援に、試行錯誤しながら取り組んできたが、昨年から高校中退者を複数出している。そこで、長期目標に「本人なりの自立の実現。トラウマインフォームドな資源を増やす。」、短期目標に「関係機関と連携しながら自立の可能性を探る。新たな社会資源を活用して自立の可能性を探る。」をあげ、取り組みを実践した。
「D」 計画の実践	職員会議の場で、直接処遇職員だけではなく、厨房や事務の職員も交えて情報を共有した。併せて児童相談所などの関係機関も交えてケーススタディを実施して、取り組みを進めていった。
「C」 実践の評価	計画は予定通り実行できなかった。原因として、①本人が園が提案する支援を選択してくれなかったこと、②本人から職員に対する暴言があり、職員側も疲弊してしまったこと、③本人の意思表示が汲み取れなかったこと、④児童相談所の保護所が満床状態のため、一時保護機能の活用ができなかったことなどが、あげられる。
「A」 結果と 改定計画	ただし、取り組みを進める中で、地域の商工会などの新たな社会資源との関係を作り始めることができたこと、市が「児童養護施設退所者等家賃助成事業」の制度を作ってくれるなど、これまで思いつかなかった効果もあった。それに伴って、園が有している機能だけでは、自立を支援することが難しいことにも気付かされた。職員間で、外部の社会資源の力に上手に頼るという考え方も醸成されてきた。それらを有効に活用しながら、今後も継続して、自立に困難を抱える高齢児の支援に取り組んでいく予定である。

＜第三者評価コメント＞

今回の取り組みでは成果がみられなかったが、自立に困難を抱える高齢児の支援は、継続する課題である。新たな気づきを次の取り組みに入れ、今後も該当する高齢児の支援に取り組んでいくことを期待する。